

次代を支える環境にやさしい製品づくり

株式会社城南電器工業所

今回は、全社員が毎日の活動として環境保全に取り組み、環境にやさしい商品づくりで注目を集める株式会社城南電器工業所の環境商品部門をご紹介します。



ビオトープ園

環境保全への思い

城南電器工業所では、地球環境の保全が人類共通の課題であることを会社全体の共通認識とし、環境負荷の少ない生産活動で自然との共生をめざす企業として、「環境」「福祉」「安全」に立脚した様々な事業を展開しています。環境商品部門で開発された商品には、電解機能水生成装置や天然素材の吸液材、特殊吸着剤で汚水を処理するドレン処理装置などがあります。また、生産活動以外でも環境にやさしい取組の一環として、「自然を大切にす心」を表現するために地域住民にも開放されたビオトープ園の設置や外部環境団体との交流を積極的に進めています。

社員一人ひとりの意識

城南電器工業所には、社員になってから、公園の掃除や緑化に向けた植樹などのボランティアに参加するようになったという人が多くいます。これは、社員“一人ひとり”が身のまわりの環境改善活動に自発的に関わられる仕組づくりによる環境保全への意識の高まりからくるものです。こうした意識の変化が地球環境を考えた「エコロジー商品」の開発の原動力にもなります。企業として、地球環境を良くしたいという思いをストレートに業務に反映させられることは、ビジネスが最優先になりがちな大企業にはない中小企業ならではの良さでもあります。



コンプレッサ専用
ドレン処理装置

用すれば、コスト面で廉価な酸化カルシウムを触媒としたバイオディーゼル油が生成でき、食品工場等のように有償で廃油処分を行っていたところが、処分していた油を燃料として活用できるようになり、資源のリサイクルとして、コスト・環境の両面に大きなメリットがあります。

装置の研究開発は、財団法人京都産業21の環境産業等産学公研究開発支援事業の助成を受けて昨年から取り組んでおり、廃油成分と処理能力の関係や必要処理能力についての検討等、来年初旬の実用化に向けて進めています。



製造されたバイオディーゼル油

繋がり

これからの時代、ものづくり産業にとって環境への配慮は一層必要不可欠なものとなってきます。いち早く環境問題への対応の重要性を意識し、産学公連携や他企業とのコラボレーションといった形で新しい技術にも目を向ける城南電器工業所は、生産活動だけではなく、地域を意識した様々な活動を行ってきた中で蒔かれてきた繋がり種が芽吹き、さらに大きく羽ばたく可能性に満ちあふれています。

新たな挑戦

現在、新たな環境保全への挑戦として、使用済みの天ぷら油等からバイオディーゼル油を製造できる装置の製品化に取り組んでいます。この技術は、酸化カルシウムを触媒として使い、植物由来の廃油からアルコールと副生グリセリンを分離除去することでバイオディーゼル油を効率良く取り出すというもので、京都府地域結集型共同研究事業において、同志社大学で開発された技術です。この技術を活

DATA

株式会社城南電器工業所
代表取締役社長 山本 高春 氏

所在地 〒611-0033 京都府宇治市大久保町成手1-28
 創 立 昭和37年4月(昭和43年8月から株式会社に改組)
 資 本 金 95,000千円
 従 業 員 146名(大久保本社)
 事業内容 電子部品、福祉関連商品、環境保全商品の開発・製造
 T E L 0774-43-1369
 F A X 0774-43-1679
 U R L <http://www.jyonan.co.jp/>

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画連携課 情報・デザイン担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-9497
 E-mail:design@mtc.pref.kyoto.lg.jp